

Q⁶⁹

職員に対してB型肝炎，インフルエンザ，麻疹，風疹，水痘，ムンプスなどのワクチンを接種する場合，対象とする職種はどのように考えたらよいのでしょうか？ また，接種率を上げるためにはどうしたらよいのでしょうか？

A

ワクチン接種は，感染症対策の三原則：感染源対策，感染経路対策，宿主感受性対策のうち，宿主感受性対策の最も基本となるものです。そのため，特に対象とする職種を限定することなく，職業感染対策の観点からも，また職員が感染性病原体に罹患した場合に患者に罹患させないためにも，医師・看護師・薬剤師などだけでなく，清掃業者やボランティアなど臨床現場において従事するすべての医療従事者を対象とする必要があると思われます。とりわけ，小児科領域や透析，救急領域などウイルス感染症罹患患者に遭遇する可能性が高い部署ではワクチン接種を確実に実施し，職業感染防止を徹底させておく必要があります。

このようにワクチン接種は基本的にすべての医療従事者を対象として行う必要があるものの，接種率は必ずしも高くないことなどの問題点が指摘されており，米国においては医療従事者のインフルエンザワクチン接種率が低い（65歳以上の接種率65.6%，医療従事者の接種率38.4%）ことが報告されています¹⁾。

ワクチン接種率の向上のためには，感染対策担当者による教育や積極的に接種機会を提供していく取り組みなどの有効性が報告^{2,3)}されていますが，一方で，麻疹や風疹，水痘，ムンプスなどのワクチンは生ワクチンでもあり，ワクチン接種の副作用についてのリスクも含め，医療従事者および社会全体がその必要性をいかに認識していくかが重要となります。

そのため，接種率の向上のためには，ワクチン接種の重要性について，すべての医療従事者に教育・啓発活動を行うとともに，極めて多忙な医療従事者がワクチン接種を受けやすい環境・状況となるように，医療施設においてどのような工夫（担当部署の配置・機会の提供・費用負担）が必要かについて協議することや，接種活動の評価や継続的な改善活動を行っていくことなどが重要です。

すでに，米国においては，多くの医療施設で入職前に，B型肝炎をはじめ，麻疹や風疹，水痘，ムンプスなどについてのワクチン接種や抗体陽性であることが求められています。今後，わが国においても安全な医学教育実習のために臨床実習前に各種ワクチンプログラムを開始することは極めて重要なことであり，臨床現場でのワクチン接種率をよりいっそう向上させていくためにも，医学・看護教育における感染制御学や職業感染対策についての講義体系の質的・量的充実をはかっていくことが必要であると思われます。

文献

- 1) CDC : MMWR 2004; 53 (6): 1-40
- 2) CDC : MMWR 2004; 54 (8): 196-199
- 3) Cowan AE, et al. : Influenza vaccinations status and influenza-related perspectives and practices among US physicians. Am J Infect Control 2006; 34 (4): 164-169

(賀来満夫)